

第 2 次掛川市総合計画の改定に関する基本方針について

1 概 要

第 2 次掛川市総合計画は、新しい令和の時代となり、将来ビジョンを展望しつつ SDGs や人生 100 年時代等の時代背景の観点を加え、令和 2 年 3 月に改定を行いました。

しかし、令和 2 年に入り、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行により、社会環境や経済状況、人々の生活や価値観まで大きく変化し、格差の拡大や社会の分断が起きています。

そのため、20 年後の掛川市を見据え、ポストコロナ時代の新しい生活様式への移行、地方分散の流れ、デジタル化等の変化を踏まえて新たな戦略をたて、ポストコロナ時代に向けたまちづくりを検討し、総合計画の改定を行います。

2 まちづくりの基本理念と将来像

引き続き、基本理念に「協働のまちづくり」を掲げ、「希望が見えるまち・誰もが住みたくなるまち掛川」と将来像とし、戦略目標である「教育・文化」「健康・子育て」「環境」の 3 つの日本一を推進します。

3 改定事項

ポストコロナ時代の視点から方向性を検討し、令和 2 年度に基本構想、令和 3 年度に基本計画の改定を行います。

4 改定の背景

- (1) 感染症の拡大による影響は、人々の生命や生活のみならず、経済・社会、さらには人々の行動意識・価値観にまで多方面に波及しつつあります。
- (2) この影響は、広範で長期にわたるために、感染症が収束したポストコロナの世界は、新たな世界「ニューノーマル」へと移行することが予想されます。
- (3) この半年間、通常であれば 10 年かかる大きな変革が一気に進み、進むべきもの（オンライン化やデジタル化等）は、飛躍的に進み、進まなかったものは取り残されたままとなっています。格差は広がり、課題が大きくなったものも多く、SDGs の視点からの課題も同様であり、様々な連携により、補完していくことが必要となっています。
- (4) 今後、これらを受け、早期に加速度を増して変革していかなければなりません。

5 ポストコロナ社会の 5 つの視点

【共通の視点】SDGs DX 新しい生活様式

ポストコロナ社会に意義が深まる SDGs、デジタル化により新しい社会へ変革、人の価値観・生活様式・社会構造等の変化

【視点 1】安全・安心・包摂的な社会を実現する。

誰ひとり取り残されることなく、安心して幸せに暮らすことのできる社会。

【視点 2】選ばれるまちへ（東京一極集中から地方分散へ）

地域資源を活用し、地方分散の受け皿として選ばれるまちへ。

【視点 3】デジタル化の推進により、誰もが恩恵を受けられ、質の高い生活を実現する。

いつでも、どこでも、誰でもテクノロジーの恩恵を受けられる豊かな生活。

【視点 4】地域内で循環し、生活する社会を実現する。

人、産業（農業、商業）、環境、経済の循環。